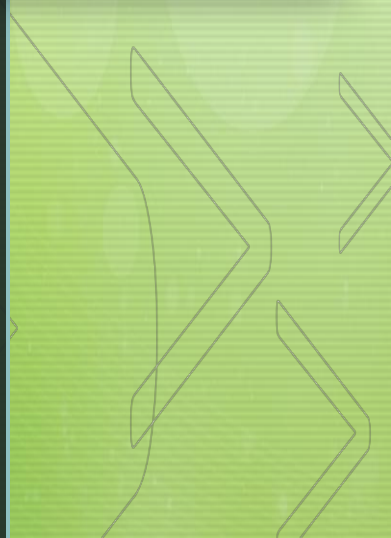




图画工作部会



図画工作部

図画工作科を通した意志をもっている姿

自ら表したいことを見付け、作品や他者との関わり合いの中で意味や価値をつくりだしながら、よりよい表現を求めて造形活動を重ねていく姿

視点 1

自らの学びをつなぐ

【その姿に向かうために】

- これまでの生活経験や図工の知識・技能から発想を広げることができるようするために、新しい材料や用具の紹介など、想像がより膨らむような題材との出会わせ方を工夫すると共に、既習や新規の表現方法に触れたり試したり選んだりする時間を確保する。
- 自分の表現へのこだわりをもちながら、「つくり・つくりかえ・つくる」ことができるようにするために、題材の自由度を精選したり、導入からねらいを明確にして、見通しをもって活動することができるような題材を構成したりする。
- 一人一人が自分の表現したものを見つめ直し、次への思いを高めることができるようにするために、ワークシートやタブレット端末等を活用して活動の足跡を残していくなど、定期的に自分の作品や活動を振り返る場を設定する。また、活動の中で、子どもの思いや考えを引き出すような声掛けをする。

視点 2

他者の学びを 自らの学びに つなぐ

【その姿に向かうために】

- 子どもがイメージを膨らませ、自分の思いをはっきりさせるために、題材名や材料等から得たイメージを言語化して、教師が板書に表したり、交流を促したりするなど、他者の見方や新たな価値に気付くような時間を意図的に設ける。
- 他者の活動に気付き、新たな発想や自分の課題解決につなげられるようにするために、感性や想像力を働かせている子どもの活動を見取って、広げるような声掛けをしたり、鑑賞と表現が行き来しやすくなるような材料や机の配置などの場を設定したりする。
- 子ども同士の対話を活性化し、多様な見方や感じ方を自分の活動に生かすことができるようにするために、子ども同士の鑑賞に共通の視点を設定すると共に、その視点を基にねらった姿に向かうような価値付けをする。

※下線は教師の手立てを示している。

図画工作部の成果と課題

【令和7年度の図画工作部で目指した意志をもっている姿】

自ら表したいことを見付け、作品や他者との関わり合いの中で意味や価値をつくりだしながら、よりよい表現を求めて造形活動を重ねていく姿

次年度につなげていきたいことや方向性について

視点1 自らの学びをつなぐ

「いいこと思いついた！」を実現する工夫

「つくり・つくりかえ・つくる」を繰り返し、よりよい表現に向けて試行錯誤し続けることができるようにするために、材料や用具の数や種類を吟味した。今回は、材料を豊富に用意したことで、思い付いたことを何度も試し、自分なりのよさを追究する姿につながった。また、種類が多かったことも、今回は「造形あそび」だったため、子どもの思い付きを形にする上で効果的だった。一方で、材料の種類によっては、子どもの思い付いたことを実現できず、活動が制限されてしまうこともあった。

そのため、材料や用具が本当に子どもの思いを実現したり、発想を広げたりするものになっているのかについてより深く吟味して、選んでいくことが必要である。そうすることで、より子どもの思い通りの活動が可能となり、よりよい表現を求めるような活動を重ねることができると考える。

子どもの活動が広がる題材構成

題材の導入では、材料に十分に親しませ、何度も試す時間を確保した。また、子どもの思いが深まったタイミングで前時を終えられるように題材構成を工夫した。また、本時の導入で、前時の写真を提示することで、具体的な学びを想起することができるようにした。それにより、本時では、子どものやりたいことが明確になり、活動に安心して取り組むことができていた。一方で、通常2時間続きで行うことの多い授業を1時間ずつに分けて行うため、場合によっては子どもの思考の流れを分断してしまうことが考えられる。

そのため、どの子の思考の流れも断ち切らないような前時の終わり方について考え、どの時間に何を提示することがより効果的か吟味する。また、前時までの学びの想起の仕方や、振り返りの仕方について吟味することが必要である。そうすることで、思いに沿って発想を広げながら、造形活動を重ね続けていく姿につながると考える。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

自然と他者に目が向くための場の設定

他者の活動が目に入ることで新たな発想へとつながるよう、子どもの動線や視線を意識した材料や机の配置にするなどの場の工夫を行った。それにより、活動中に材料を選びに行くなどの子どもの動きが生まれ、その際に、自然と周りの子どもの活動に目を向けたり、会話したりする姿が見られた。

しかし、依然として自分の活動に終始してしまう子どももいることや、場の設定だけの手立てでは、「人の作品を見る必要を感じない。」と捉える子どもがいることも考えられる。そこで、授業の導入や終わりに作品を見合う時間や、自分の作品を紹介する時間を意図的に設けることで交流を生む。また、そうした時間を設けることを事前に伝え、見通しをもてるようにすることも重要である。

そうすることで、「自然に生まれる交流」と「意図的に設定した交流」の2つの交流により、どの子どもも他者の学びを得る機会を担保することができると思う。

他者の活動や思いに気付かせる教師の関わり

子どもが多様な見方を他者と共有できるようにするために、題材において共通の視点をもって活動・鑑賞を行い、教師からも授業中にその視点に即した価値付けを積極的に行った。それにより、他者の活動から刺激を受けながら、「よりよい表現」を目指して活動し続ける姿が見られた。しかし、「よりよい表現」を目指す姿とは、具体的にどのような姿であるのかを見取ることが人によっては難しかった。

子どもの具体的な姿は題材によって異なるため、より明確に想定し、指導案上にも明記しておく必要がある。また、教師の具体的な声掛けについても、事前にどのような子どもの姿を見取り、どのように価値付けをするのかということについて吟味していく。そうすることで、子どもの鑑賞の視点がより焦点化されるとともに、活動に広がりが見られることにつながると考える。

【本題材で目指す意志をもっている姿とその理由】

思い付いたことを次々と試し続け、自分なりの色の面白さや楽しさを探そうとする姿

今年度の絵の題材ではクレヨン・色鉛筆を主として用いており、絵の具を使つての活動は行っていない。そのため、海なら青、草なら黄緑と子どもたちは疑いもなく色を選んで描いている。そこで、本題材では、赤・青・黄色の色水を混ぜて新しい色を見付けていくことに充分に浸る活動にすることで、様々な色に気付けるようにする。また、色づくりを楽しむだけではなく、つくった色から発想を広げ、並べたり、形をつくったりする活動にまで発展させていくための場や材料の工夫を行っていく。そうすることで、「この色とこの色の間の色をつくるにはどうしたらいいのだろう。」や「もっとたくさん色をつくりたいな。」と、色の面白さや楽しさを探そうと、試し続ける姿が生まれていくと考えた。このような自分なりの色に対する価値をつくりだす活動を低学年から繰り返し続けていくことが、子どもたちの色に対する感覚をより豊かにしていくことにつながると考えた。

【題材の目標】

- ・色水をつくったり並べたりするときの感覚や行為を通して、いろいろな色や形などに気付くとともに、色水を混ぜたり並べたりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくる。【知識及び技能】
- ・色水の色や容器の形などを基に自分のイメージをもち、造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動をするのかを考える。【思考力、判断力、表現力等（発想や構想）】
- ・色水や作りだしたものの造形的な面白さや楽しさ、造形的な活動、つくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。【思考力、判断力、表現力等（鑑賞）】
- ・楽しくいろいろな色水をつくることから思い付いたことを試す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとしたり、これからの学習に意欲をもったりする。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

制限によるきっかけと自らの思い付きを実現する材料

題材名に「カラフル」とあるが、もとの絵の具の色は、赤・青・黄色の三色に限定して提示する。そうすることで、たった三つの色を知っている色に変身させたいという思いをもつと考えた。色水をつくるボトルは子ども的人数分用意し、自分の思いに合った濃度に調整することができるようにしたり、色同士を混ぜ合わせるカップは、何度も試し、色の微妙な変化を並べながら感じるように豊かに用意したりすることで、活動に広がりが生まれるようにする。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

友達の活動に目が向く場の設定とかかわり

造形あそびでは、自分の活動に没頭し、友達の活動に気付けないことが多くある。そこで、友達の活動が自然と目に入るようにしていく必要があると考えた。そのために、材料の配置によって動きのある活動にするだけでなく、色水を飾る場所を用意し、自分の色水を飾りながら友達の活動に目が向くような場の設定をする。また、子どもの活動を見取り、写真で紹介したり、広げるような声掛けをしたりすることで、他者の活動にも興味をもち、新たな発想へとつなげられるようにする。

【題材構成（2時間扱い）】

赤・青・黄色の色水を混ぜてみよう！

水に色が付いておもしろいな。

混ぜたら色が変わったね！

オレンジ色ってできるかな？

色水を混ぜたら、どんな「おもしろい」が見つかるかな？

絵の具をたくさん使くと濃いね。

青と黄色で緑ができたよ！

たくさん混ぜたら茶色みたいになってきた。

ゆっくり混ぜたらだんだん色が変わるよ。

これは、紫のなかまの色だ。

色のなかまで並べてみようかな。

ジュース屋さんみたいにしたいな。

色を並べて、虹をつくってみたいな。

(本時)

色水を混ぜたり、並べたりして、どんな「おもしろい」が見つかるかな？

グラデーション

分類

形づくり

色づくり

見立てあそび

だんだん色が変わるように並べたらきれいだな。

緑のなかまでこんなにあってんだね。

黄色のなかまで星をつくったらいいな。

たった3色から、こんなに色ができたよ。

オレンジジュースの色にぴったりになったよ。

自分だけの色や形が見つかったね。色ってたくさんあっておもしろいね。

【本時の目標】

色水の色を基に思い付いた造形活動を繰り返し試していくことを通して、色やつくりだしたものの造形的な面白さや楽しさを感じ、色に対する見方や感じ方を広げることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（２／２）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図とかかわり
＜前時まで＞ 赤・青・黄色の色水のつくり方を知り、それを混ぜ合わせることで別の色ができることを理解して、何度も試しながら新たな色をつくりだすことを楽しんでいる。また、色の混ざり方や変化、それを基にした形づくりなど、色に焦点化した「おもしろい」と感じる造形活動について考え始めている。		
○前時の活動を思い出す。 水に絵の具を入れて混ぜたら色水ができたね。 色水同士を混ぜたら、新しい色ができたよ。 もっとカラフルにしたいな。 並べてみたら面白くなりそう。 色水を混ぜたり、並べたりして どんな「おもしろい」が見つかるかな？ 黄緑を作るにはどうしたらいいかな。 虹をつくっているけど、紫が足りないからつくりたいな。 メロンジュースの色にするにはもっと青を入れようかな。 赤と青を混ぜる量を変えたら思った通りの色ができるかな。 だんだん色がかわるように並べたよ。間の色ができないかな。 虹の色の順に並べてみたよ。アーチ形にしてみようかな。 つくった色を並べてみようかな。 色水を並べて、カラフルなお花ができたよ。茎もつくろう。 カップを並べたらジュース屋さんに見えてきた。もっとジュースがつくりたいな。 上から見ると、形がみえてきたよ。赤っぽい色水でハートにしようかな？ 色 かんじる つくりだす ためす イメージ 形 ○振り返り＆鑑賞 なかまに分けたら、同じ青でも、いろんな青があるってわかったよ。 たくさん色を混ぜたら泥みたいな色になるね。 だんだん色が変わるように並べたらきれいだったよ。 いろんな色で模様をつくと楽しかったよ。 自分だけの色や形が見つかったね。 色ってたくさんあっておもしろいね。 ○片付け、挨拶	前時の写真などから活動を想起しながら、「おもしろい」の意味を再確認していくことで、色に焦点化して活動できるようにする。 (視点２) カップの種類や数を豊富に用意することで、思い付いた活動をどんどん試すことができるようにする。 (視点１) 活動を見下ろすことのできる台を用意したり、棚の上、床など活動場所の種類をたくさん用意したりすることで、友達の活動が目に入ったり、視点がかわったりして、新たな発想につなげることができるようにする。 (視点２) 色に焦点化しながら活動している子どもを見取り、意図を聞いたり価値付けするような声掛けをしたりすることで、周囲の子どもが他者の活動に気付ききっかけになるようにする。 (視点２) 色水のつくり方や並べ方などの工夫や色水づくりを通して感じたことを表現する時間を担保することで、色に対する学びを実感できるようにする。 (視点１)	クレヨン等による色の知識 造形あそびの経験

【本時の評価】

色水をつくったり、並べたりする活動を通して、色に対する多様な見方や感じ方を発見している。

(表現・行動観察・発言)

授業後の振り返り

【本時の板書】



視点1 自らの学びをつなぐ

【成果】

○絵具の色を赤・青・黄の三色に限定したことは、子どもが色づくりをしたいという思いにつながった。また、元の色水をつくるボトルの数を子どもの人数分用意したことで、それぞれの思いに合った濃さに調整しながら活動をする姿が見られた。

○本実践では、色水を混ぜ合わせるためにブラカップ、プラコップ、卵パック、ペットボトルを切ったカップ、ミニボトルをそれぞれ100個程度用意した。材料の数を豊富に用意したことは、「次はこれをしたい。」という思いを止めることなく活動し続けることができた。また、容器の種類をいくつか用意したことで、「ゼリーのカップだからゼリーの色にしたい。」など、容器の形からイメージをもったり、「卵パックにたくさん色を並べたらきれい。」と、色を並べる面白さに気付いたりすることにつながった。

【課題】

●子どもに活動の見通しをもたせないまま、活動に入ってしまった。そのため、「最後に飾りたいと思っていたのに。」と、自分の活動をコントロールできずに終わってしまうという姿が見られた。時間の見通しや、最後にみんなで見合っこのタイムをとるなどの活動の見通しをきちんとおさえてから活動に入るべきだった。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

【成果】

○授業の導入で、前時の活動を想起するために写真を見せたことは、自分の活動に没頭してしまう造形あそびにおいて、友達の活動にも目を向けるきっかけになった。また、写真から色をつくる面白さ、色を並べる楽しさに気付くことで、自分の活動にも取り入れようとする姿が見られた。

○材料置き場、絵具置き場、活動場所を分けたことで、必然的に動きのある活動になっていた。外で活動している子ども、必ず室内に入って材料を取りに行かなければならないため、友達の活動が目に入る環境になっていた。

【課題】

●友達の活動が目に入りやすいように、飾る場所も用意したが、あとで飾ると思っている児童も多く、指示不足だった。また、自分の近くで色を見たいと思う児童も多くいると感じたため、活動場所の近くに飾る場所がもっとあれば、友達の活動が目に入りやすかったのではないかな。

●担任に対して「見てほしい。」という思いが強い児童のところに行く機会が増えてしまい、見取りきれていない児童がいた。もっと担任からの声掛けが必要だった児童もいたが、その調整をすべきだった。